

教科	理科	科目	生物基礎			単位数	2単位
学科	工業科	履修学年	1学年	コース		必修・選択	必修
教科書	新編生物基礎（東京書籍）						
副教材等	ニューサポート新編生物基礎（東京書籍）						

学習目標		日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象に関する観察、実験する基本的な技能を身に付けるようにする。また、生物や生物現象の問題解決のため行う実験・実習のデータ分析する力を身に付けるようにする。そして、主体的に学びに向かう力を養うため、科学的に探究する態度や生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。					
指導の重点		<p>生物と遺伝子について観察、実験などを通して探究し、細胞のはたらき及びDNAの構造と機能の概要を理解させ、生物についての共通性と多様性の視点を身に付けさせる。</p> <p>生物の体内環境の維持について観察、実験などを通して探究し、生物には体内環境を維持するしくみがあることを理解させ、体内環境の維持と健康との関係について認識させる。</p> <p>生物の多様性と生態系について観察、実験などを通して探究し、生態系の成り立ちを理解させ、その保全の重要性について認識させる。</p>					
学習計画	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)			評価方法	
	1学期 (20)	生物の特徴 遺伝子とそのはたらき	生物の多様性と共通性 生物とエネルギー 遺伝情報とDNA (期末考査)			定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。	
	2学期 (24)	遺伝子とそのはたらき ヒトの体の調節	遺伝情報とタンパク質の合成 (中間考査) ヒトの体を調節するしくみ 免疫のはらはたらき (期末考査)			定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。	

	3 学期 (20)	生物の多様性と生態系	植生と遷移 生態系と生物の多様性 (学年末考査)	定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
計 6 4 時間 (5 5 分 授 業)				
評価規準と 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	生物や生物現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身につけるようにしている。	生物や生物現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、導き出した自らの考えを的確に表現するなど、科学的に探究しようとしている。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
<p>[評価方法]</p> <p>【知識・技能】 定期考査・小テストの成績・実験レポート等</p> <p>【思考・判断・表現】 定期考査・実験レポート・授業中の発言・グループワーク等</p> <p>【主体的に取り組む態度】 実験の準備・片付け・道具の管理・授業プリント等</p> <p>上記の内容から総合的に判断し、3つの観点別に達成率が80%以上をA、79～50%をB、50%未満をCと評価する。5段階評定は観点別の達成率に比重を乗じたものを合計し、以下のように換算する。5 (80%以上)、4 (79～60)・3 (59～50)・2 (49～40)・1 (39以下)</p>				